

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	鍼灸臨床実技		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	5階実技室
担 当 教 員	寶田 潤	実務経験とその関連資格	田中整形外科クリニック・西村胃腸科外科クリニックで5年(1996年～1998年・1999年～2002年)リハビリテーション室にて鍼灸師として勤務 はり師きゅう師			
《授業科目における学習内容》						
スポーツ疾患などに対する鍼灸治療技術を高める						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
参考図書:新版 経絡経穴概論 :東洋療法学校協会編 ずっと使える!鍼灸臨床BOOK :滋慶出版/つちや書店 など 東洋医学臨床論 〈はりきゅう編〉東洋療法学校協会 編 教科書執筆小委員会 著 :医道の日本社						
《授業外における学習方法》						
2年生で学んだ「鍼灸治療学」の実技授業となります。症状・検査・治療方法の復習を行い授業に臨んでください。						
《履修に当たっての留意点》						
近年、他の医療職の方へ鍼灸治療について説明する機会が増えています。自分だけがわかる治療ではなく、常に他の人たちにも理解できる治療をこころがけましょう。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	野球肩の症例に基づき、医療面接～治療につなげる			鍼灸治療学の復習
		各コマにおける授業予定	野球肩に対する鍼灸治療			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	ド・ケルバン病(腱鞘炎)の症例に基づき、医療面接～治療につなげる			鍼灸治療学の復習
		各コマにおける授業予定	ド・ケルバン病(腱鞘炎)に対する鍼灸治療			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	筋筋膜性腰痛の症例に基づき、医療面接～治療につなげる			鍼灸治療学の復習
		各コマにおける授業予定	筋筋膜性腰痛に対する鍼灸治療			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	腸脛靱帯炎(ランナー膝)の症例に基づき、医療面接～治療につなげる			鍼灸治療学の復習
		各コマにおける授業予定	腸脛靱帯炎(ランナー膝)に対する鍼灸治療			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	オスグッド・シュラッター病の症例に基づき、医療面接～治療につなげる			鍼灸治療学の復習
		各コマにおける授業予定	オスグッド・シュラッター病に対する鍼灸治療			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	コンパートメント症候群の症例に基づき、医療面接～治療につなげる		鍼灸治療学の復習
		各コマにおける授業予定	コンパートメント症候群に対する鍼灸治療		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	アキレス腱炎の症例に基づき、医療面接～治療につなげる		鍼灸治療学の復習
		各コマにおける授業予定	アキレス腱炎の症例に対する鍼灸治療		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	肋間神経痛の症例に基づき、医療面接～治療につなげる		鍼灸治療学の復習
		各コマにおける授業予定	肋間神経痛に対する鍼灸治療		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	正中神経障害の症例に基づき、医療面接～治療につなげる		鍼灸治療学の復習
		各コマにおける授業予定	正中神経障害に対する鍼灸治療		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	尺骨神経障害の症例に基づき、医療面接～治療につなげる		鍼灸治療学の復習
		各コマにおける授業予定	尺骨神経障害に対する鍼灸治療		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	橈骨神経障害の症例に基づき、医療面接～治療につなげる		鍼灸治療学の復習
		各コマにおける授業予定	橈骨神経障害に対する鍼灸治療		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	三叉神経痛の症例に基づき、医療面接～治療につなげる		鍼灸治療学の復習
		各コマにおける授業予定	三叉神経痛に対する鍼灸治療		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	顔面神経麻痺の症例に基づき、医療面接～治療につなげる		鍼灸治療学の復習
		各コマにおける授業予定	顔面神経麻痺に対する鍼灸治療		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	坐骨神経痛の症例に基づき、医療面接～治療につなげる		鍼灸治療学の復習
		各コマにおける授業予定	坐骨神経痛に対する鍼灸治療		
第15回		授業を通じての到達目標	総括		
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名		鍼灸臨床実技		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		3年		学期及び曜時限	通年	教室名	5階実技室
担 当 教 員		寶田 潤	実務経験とその関連資格	田中整形外科クリニック・西村胃腸科外科クリニックで5年(1996年～1998年・1999年～2002年)リハビリテーション室にて鍼灸師として勤務 はり師きゅう師			
《授業科目における学習内容》							
臨床において、安全かつ効果的に施灸する技術を身につけること。 また、経絡切診をスムーズに行い、反応点を捉える手の感覚を養うこと。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
参考図書: 新版 経絡経穴概論 : 東洋療法学校協会編 ずっと使える! 鍼灸臨床BOOK : 滋慶出版/つちや書店 など 東洋医学臨床論 〈はりきゅう編〉東洋療法学校協会 編 教科書執筆小委員会 著 : 医道の日本社							
《授業外における学習方法》							
この授業は、経穴の反応を探る手、お灸をリズムよく捻る手、これを身につけることが最大の目的です。 そのため、授業外でも艾を捻り、体表観察の練習を日々心がけてください。							
《履修に当たっての留意点》							
近年、他の医療職の方へ鍼灸治療について説明する機会が増えています。自分だけがわかる治療ではなく、常に他の人たちにも理解できる治療をこころがけましょう。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	米粒大・半米粒大の形を捻り分ける。			もぐさを捻る練習をしておく	
		各コマにおける授業予定	・臨床に必要な施灸技術についての説明 ・臨床での灸の活かし方について説明 ・板上で施灸、艾柱のチェック				
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	米粒大・半米粒大の形を捻り分ける。施灸リズムを身につける。			捻り手を止めずに動かす練習をしておく	
		各コマにおける授業予定	・人への施灸リズムのデモ ・板上リズム施灸10秒1壮、艾柱チェック ・板上リズム施灸8秒1壮、艾柱チェック				
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	米粒大・半米粒大の形を捻り分ける。施灸リズムを身につける。			捻り手を止めずに動かす練習をしておく	
		各コマにおける授業予定	・人への施灸リズムのデモ ・板上リズム施灸10秒1壮、艾柱チェック ・板上リズム施灸8秒1壮、艾柱チェック				
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	人体へリズムよく、刺激量を調節しながら施灸できる。			自分の手足の経穴に8分灸の練習	
		各コマにおける授業予定	・板上施灸ウォーミングアップ ・自分の手足へ8分灸で据える(つまみ消し・押し消し) ・ペアで相手の手足に7～8分灸を据える(つまみ消し・押し消し)				
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	人体へリズムよく、刺激量を調節しながら施灸できる。			自分の手足の経穴に8分灸の練習	
		各コマにおける授業予定	・板上施灸ウォーミングアップ ・自分の手足へ8分灸で据える(つまみ消し・押し消し) ・ペアで相手の手足に7～8分灸を据える(つまみ消し・押し消し)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	肺、大腸経、前腕の経穴切診と反応点への施灸ができる		肺、大腸経の経絡流注の復習
		各コマにおける授業予定	・板上ウォーミングアップ ・経絡切診のデモ ・ペアを変えながら、肺、大腸経の切診と反応点への施灸		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	心包、三焦経、前腕の経穴切診と反応点への施灸ができる		心包、三焦経の経絡流注の復習
		各コマにおける授業予定	・板上ウォーミングアップ ・経絡切診のデモ ・ペアを変えながら、心包、三焦経の切診と反応点への施灸		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	心、小腸経、前腕の経穴切診と反応点への施灸ができる		心、小腸経の経絡流注の復習
		各コマにおける授業予定	・板上ウォーミングアップ ・経絡切診のデモ ・ペアを変えながら、心、小腸経の切診と反応点への施灸		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	脾、胃経、下腿の経穴切診と反応点への施灸ができる		脾、胃経の経絡流注の復習
		各コマにおける授業予定	・板上ウォーミングアップ ・経絡切診のデモ ・ペアを変えながら、脾、胃経の切診と反応点への施灸		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	肝、胆経、下腿の経穴切診と反応点への施灸ができる		肝、胆経の経絡流注の復習
		各コマにおける授業予定	・経絡切診のデモ ・ペアを変えながら、肝、胆経の切診と反応点への施灸		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	腎、膀胱経、下腿の経穴切診と反応点への施灸ができる		腎、膀胱経の経絡流注の復習
		各コマにおける授業予定	・経絡切診のデモ ・ペアを変えながら、腎、膀胱経の切診と反応点への施灸		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	背候診を行い、反応点に安全に施灸できる		背部への施灸練習
		各コマにおける授業予定	・ペアで背候診を行い、反応点に施灸		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	背候診を行い、反応点に安全に施灸できる		背部への施灸練習
		各コマにおける授業予定	・ペアで背候診を行い、反応点に施灸		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	自宅施灸の指導と灸点を正しくつけることができる		自宅施灸の意義を考える
		各コマにおける授業予定	・自宅施灸の意義を考える ・指導の際に気をつけるポイントを学ぶ ・ペアで灸点を付けて、指導の練習を行う		
第15回		授業を通じての到達目標	総括		
		各コマにおける授業予定	まとめ		